



文教大学教育研究所
〒343-8511
埼玉県越谷市南荻島 3337
Tel. 048-974-8811

教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2016.10第45号

- 巻頭言
- 海外の教科書所蔵一覧
- 2016年度世界の教科書展
(ドイツの教科書)
- 世界の教科書展巡回展
- 2016年度「定例研究会」、
「文教大学の授業」

アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）で 求められるファシリテーター、しんがり（殿）の思想

文教大学教育研究所 所長 今田 晃一

当初大臣諮問では「主体的・協働的な学び」とされていたアクティブ・ラーニングの定義は、「主体的・対話的で深い学び」として改めて教育課程企画特別部会における論点整理（報告）で示された（2016.8.26）。教育現場では主体的・協働的・創造的な学習活動を通して、子供たちに学習の達成感を味わわせて学びの意欲を高めることがアクティブ・ラーニングの目標とされ、様々な実践が積み重ねられていた。これらはどうしても総合的な学習の時間のイメージで捉えられていたこともまた事実であった。それがこの「対話的な学び」が強調されたことによって、1時間の授業や単元のなかにも子供たち同士の対話などを意図的に設ける授業デザインが必要であることが明らかになった。

これは教師の役割を改めて考える契機ともいえる。「対話的な学び」のなかでは、教師は子供たちの学びの促進役となる。授業者の一方的な説明だけでなく、今後は子供同士の対話を活性化し充実させること、いわゆるファシリテーターとしての教師の役割が求められてくるのであろう。

そして授業では積極的にアクティブ・ラーニングを行うけれど、学級経営はルールをしっかり守らせる規律訓練型ではダブルバインド（二重拘束）に陥るのではないかとリーダーシップ型の熱心な先生ほど悩みだしているという。

ファシリテーターの在り方を考える上で、鷲田精一著『しんがりの思想—反リーダーシップ論』（角川書店、2015）に述べられている「しんがりの思想」が興味深い。登山のパーティーでは、最後尾を務める人は経験と判断力と体力に最も秀でた人が、その任「しんがり」を務める。次の総合的な実力者が、最前列である先頭を歩く。そして最も経験と体力に劣るものが先頭の真後ろにつき、先頭はその真後ろの人の息づかいや気配を背中を感じながら歩行のペースを調整するのである。要は、最後尾の「しんがり」だけが、隊列全体をみることができ、パーティーの全員の後ろ姿を見ることができる。そして隊員に何かあったときは間髪をおかず救助にあたる（145頁、筆者要約）。

今後は、主体的な学びを促すアクティブ・ラーニングの指導が、新任の教師にも当たり前のよう求められる。そのため反リーダーシップ型の教師（ファシリテーター型）の視点の涵養が教員をめざす学生にも不可欠となってくる。一般に学校現場では、10年以上リーダーシップ型の教師のスタイルを追究し一定の評価を得て、なおかつその指導に行き詰った時にやっと到達する境地。それがこの「しんがりの思想」のイメージである。教員養成系の大学に求められている課題は多い。

教育研究所所蔵の 海外の教科書

教育研究所では 1991 年の創設時より海外の小学校・中学校教科書を収集している。これまでに収集した教科書の内訳は下表のとおりである。

研究部ではこれらの教科書をもとに各国の教育制度や教育事情を研究し、その成果を「世界の教科書展」において毎年発表している。今年度はドイツの教科書を集め、現在までに小・中学校の教科書を計 109 冊購入した。来年度はラオス

の教科書を取り上げる予定で、すでに教科書の収集作業を進めている。

海外の教科書を収集・保管する学術機関は少なく、またそれらの購入も容易ではないため、ここ数年ではマスコミをはじめとする各方面からの問い合わせや取材申し込みが増えており、貴重な資料として注目されている。海外の教科書については、貸し出しはおこなっていないが、研究所での閲覧は自由であるため、ご覧になりたい方は教育研究所（10 号館 2 階）までご連絡のうえ、お気軽にお越し頂きたい。（紀井 佳奈子）

小学校 (2016/8/31現在)	国語	社会	算数	科学	生活科	総合科	音楽	美術	体育健康	実科	英語	日本語	宗道 教徳	情報	国際 理解	その他	計
アメリカ		1	29														30
イギリス	6	12	8	6										4			36
インド	141		5			10		7					9	15			187
インドネシア	6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
オーストラリア	60	7	23	18				6	10	6		2	3		1	7	143
オランダ	2	3	6	6							1					2	20
韓国	26	14	23	16	10		4	4	4	2	6		10			8	127
シンガポール			19	13					6		5						43
スイス	2		1														3
スペイン	6	4	6	6		3					6		7	2		1	41
スリランカ	7		5								6		6				24
タイ	12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
中国	10	11	16	15			6	5			4		6			1	74
ドイツ	8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ	22	19	18	16							18		19			22	134
バングラ ディシュ	5		3								1					3	12
フィンランド	28	7	26	18							10						89
フランス		10	7														17
ポーランド	1		1	1													3
マレーシア	14	3	17	11	1				6		10		16			8	86
ロシア	51	1	27	3	26	0	4	9	4	11	36	0	0	7		3	182
ブラジル	10	9	9	9				5			5		11			6	64
計	417	119	273	150	58	18	16	40	45	25	137	2	96	28	1	73	1498

※1 内訳にはワークブック、教師用指導書を含む。他に、中学校 431 冊（12 力国）、高校 50 冊（4 力国）を所蔵。

※2 トルコの教科書については、教育制度の理由から、小中学校で使用されている教科書の数値とした。

第 23 回 世界の教科書展 「ドイツの教科書」のお知らせ
10月28日～10月30日 藍蔘祭参加/8202 教室

現在、16の州から成るドイツ連邦共和国は「教育連邦主義」を採用することで、初等教育と中等教育については「州」に設置される文部省に権限が与えられている。したがって、教育政策および教育内容は「州」によって異なり、それが多文化主義を掲げるドイツ教育の特徴として挙げられる。しかしその一方で、ドイツ国内において増加する移民の子どもたちの不十分な教育環境は学力格差を生みだし、それによってドイツ全体の学力低下が懸念されている。教育の多様性を特徴としながらも、学力格差による学力低下を突きつけられている現在のドイツではどのような教育が求められ

ているのか。今回の教科書展では、ドイツの教科書に実際に触れていただきながら、ドイツ教育のいまを体感していただきたい。

(研究部主任 平 正人)



ドイツの教科書

《世界の教科書》巡回展
日時：2016年12月10日(土曜日)から17日(土曜日) 10時から21時
会場：「OKEGAWA hon+」(桶川駅西口駅前桶川マイン3階)

文教大学教育研究所は、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的として、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究活動に取り組んでいる。なかでも、越谷キャンパス学園祭(藍蔘祭)において開催している《世界の教科書展》は、研究所の特色ある取り組みのひとつとして各方面から注目を浴びている。2015年までに計22カ国の教科書を特集し、研究所の

教科書コレクションは現在では約2000冊に達している。この度、丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部との共催事業として《世界の教科書展》巡回展を開催する。教育研究所の保有する教科書コレクションの全貌を展示することで、文教大学のブランドを広くアピールする機会にしたいと考えている。

(研究部主任 平 正人)



今までに開催した教科書展ポスター

2016 年度教育研究所「定例研究会」のお知らせ

【第 90 回 10 月 29 日（土）13:00～16:00】 8201 教室（8 号館 2 階）

- 綾 牧子 : アクティブラーニングの授業計画における留意点と今後の課題
村山 大樹 : 幼児教育における ICT の活用のための保育者研修
村橋 直樹 : iPad を用いた授業づくり ～算数「一筆書き」を中心に～
加藤 紫識 : 社会科教育における地域博物館の活用・連携の再検討
清水 祥平 : ICT を利用したアクティブラーニングの研究 ～情報モラル教育を中心に～
長田 朋之 : iPad を用いた授業づくり ～校外学習における iPad の活用実践研究～

【第 91 回 10 月 30 日（日）9:30～13:00】 8201 教室（8 号館 2 階）

- 阪本 陽子 : 若者の社会教育実践を考える ～青年学級事業に注目して
江田 節子 : 健康長寿社会をサポートするための歯科衛生士の果たす役割について
栗原 保 : 家庭の教育力向上に関する実証的な研究（1） ～親役割の取得に着目して
清水 香保里 : 豊かな心を育てる道徳教育の推進
川北 雅冬 : 4 技能の英語力向上を目指した外国語活動の授業改善に関する一考察
青木 大輔 : 「教養」の周辺
松嶋 淑恵 : 免許更新講習における性の多様性についての講義の実践報告

【第 92 回 3 月 4 日（土）13:00～14:00】 1305 教室（10 号館 3 階）

- 小関 友美子 : 小学校における武道的身体の育成Ⅱ
鬼澤 大地 : 小学校段階でのアクティブ・ラーニングの実践研究
～児童司会・反転授業の実践と発問工夫による～

（研修部主任 加藤純一）

2016 年度『文教大学の授業』執筆者紹介

- 第 56 号 文学部 山川 智子 先生（既刊）
第 57 号 教育学部 加藤 理 先生（既刊）
第 58 号 情報学部 岡野 雅雄 先生（既刊）
第 59 号 経営学部 新井 立夫 先生

2016 年度 教育研究所スタッフ

所 長	今田 晃一
研究部主任	平 正人
研修部主任	加藤 純一
事 務	紀井佳奈子